

## 子どもたちの育ちの姿、うれしいです！！

田川市教育委員会 教育長 吉 柳 啓 二

「このコンテストを通して、人前で自分の意見を英語で表現することの大変さがわかりました」「私は、英語で話す楽しさを知りました。いい経験になりました」「3年間参加しているのですが、年々、みんなのレベルが高くなっていて、すごく練習しているんだろうなと思いました。みんな、入賞していいくらい上手だったと思います」

上の文章は、「第4回中学生英語スピーチコンテスト」に参加した市内中学生の大会後の感想の一部です。今回のスピーチ大会の特色は、「自由課題（自分でテーマを決め、思いや考えを英語で発表する）」に挑戦する生徒が16人中12人もいたことです。そのテーマも「少林拳」「生徒会」「ヤマメと私」「SDGs」など、多種多様です。1回目から審査を担当していただいている青山学院大学の木村松雄教授も「田川市の生徒たちの英語力は確実に高まっています！」と太鼓判を押してくださいました。



すごいのは中学生だけではありません。11月に初めて開催した「第1回田川市自由研究作品展プレゼン部門」においても、個人部8人とグループ22人の計30人の小学生が頑張りました。「雲はどうやってできるのか?」「いろんなチョークを作ろう!」「なぜ、明太子が福岡の名物になったのか」「田川市のよいところ」等、自分でテーマを決めてパソコンでプレゼン資料を作り、発表しました。子どもたちの発表を見た先生の感想アンケートには「どの子どもも堂々としていて、田川の子どものたくましさを感じる発表だった!」と書かれていました。田川市のICT教育アドバイザーである中村学園大学の山本朋弘教授も「小学校全体のプレゼン大会は福岡県で初めてだろう!画像やイラストを上手に使っていた!」と高い評価をしてくださいました。また、同じく11月に行われた「少年の主張」田川市大会でも市内8中学校の代表が自分の思いや考えをしっかりと発表しました。最優秀賞を獲得した「努力のキセキ」というテーマの主張はニュースでも紹介されていました。



最後にもう一つ。私が自家用車で通勤する途中、毎朝、女子中学生2人が交差点の分離帯付近でゴミはさみと軍手を使って、ゴミ拾いをしているのです。車の窓から「学校の取組でゴミ拾いをしているの?」と聞くと「いえ、自分たちでしています!」と元気に答えてくれました。私は市内の小中学校の子どもたちの頑張る姿や育ちの姿をたくさん見せてもらい、本当にうれしいです!

